

令和6年度 豊岡市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 2名
- 2 認知症地域支援推進員の役割：認知症施策担当
 - （1）普及啓発・本人発信支援
 - （2）予防
 - （3）早期発見・早期対応
 - （4）医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
 - （5）認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

報告者氏名：豊岡市役所高年介護課 林恭子、山田晃子

豊岡市 認知症施策全体図

(4) 認知症総合支援事業

豊岡市認知症総合支援事業（認知症あんしん大作戦）の取組

目指す姿：認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる。

豊岡市認知症支援ネットワーク会議

〔業務〕 認知症支援事業の企画・調整、ネットワーク構築、初期集中支援チームの活動について検討
〔組織〕 認知症サポート医、民生委員・児童委員、家族介護者、介護保険事業所、豊岡市社会福祉協議会、認知症疾患医療センター、県、行政等

※赤字：重点的に取り組むもの

認知症の人やその家族の視点を重視して、取り組みを行う	五つの柱	豊岡市の取り組み（第9期）
	①普及啓発・本人発信支援	a. 認知症サポーター養成と受講後の活動の支援 b. 認知症キャラバンメイトの活動支援 c. 身近な場における認知症理解の普及・啓発 d. 認知症の人の生活を知り、ともに暮らすための普及啓発
	②予防	a. 認知症予防講座の開催
	③早期発見・早期対応	a. 地域包括支援センター等に早期に相談がつながる仕組みづくり b. 認知症疾患医療センター、かかりつけ医等との連携 c. 認知症ケアネット（国：認知症ケアパス）の周知・活用 d. 認知症初期集中支援チームの周知・活用
	④医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	a. 認知症地域支援推進員の設置 b. 介護従事者等に対する研修・事例相談会の開催 c. 認知症の人と介護者への支援 ・認知症カフェの周知 ・認知症カフェ等の立ち上げ支援及び運営支援 ・認知症家族介護教室の実施
	⑤認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	a. 若年性認知症の人と家族への支援 ・相談窓口の周知 ・若年性認知症の人と家族のつどいの実施 ・若年性認知症生活支援相談センター等との連携 ・当事者の居場所づくり・社会参加への支援 ・当事者及び家族の思いの発信 b. 地域見守り体制の推進 ・高齢者見守りネットワークの充実 ・認知症高齢者等見守り・SOSネットワークの充実 ・個別ケア会議の開催 c. 権利擁護の推進（68ページに記載） ・消費者行政窓口、弁護士会等職能団体との連携 ・市民後見、法人後見の検討 ・権利擁護研修会の実施

普及啓発・本人発信支援

認知症の人の生活を知り、ともに暮らすための普及啓発

認知症VR体験会

1 目的

- ・市民が、認知症の症状を疑似体験することで、認知症を正しく理解し、適切な接し方について知識を得ることができる
- ・市民が、認知症の症状の疑似体験を通し本人の立場に立った支援を考える機会とする

2 対象

- ・市内在住・在勤の認知症ケアにかかわる支援者（介護保険関係事業所職員）
- ・市内在住の認知症の人の家族介護者

3 内容

VRで認知症状を疑似体験し、感じたことについてグループワークを通して、認知症についての理解・知識を深める。

4 実施

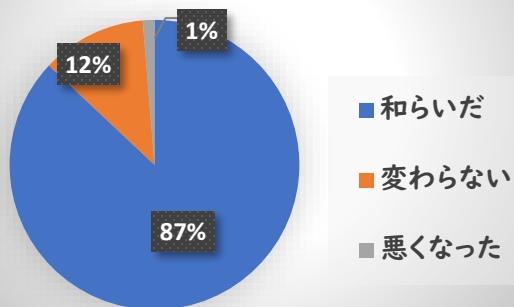
2024年9月30日～10月4日 9回

5 参加者

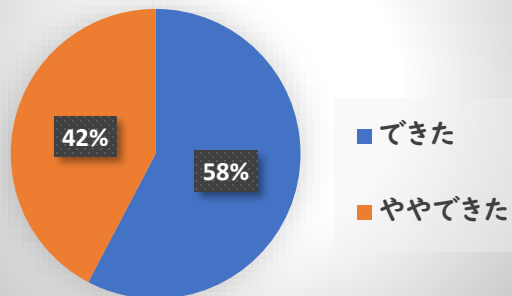
福祉職員、家族介護者、市職員 合計 78名

アンケート結果

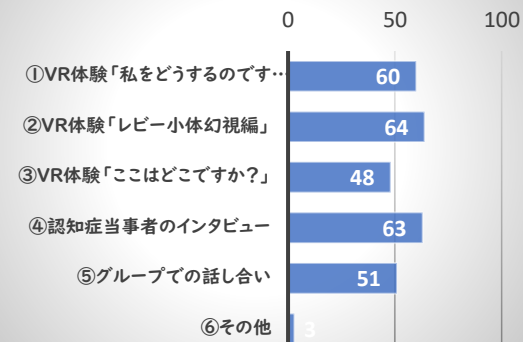
認知症に対するイメージが変わったか



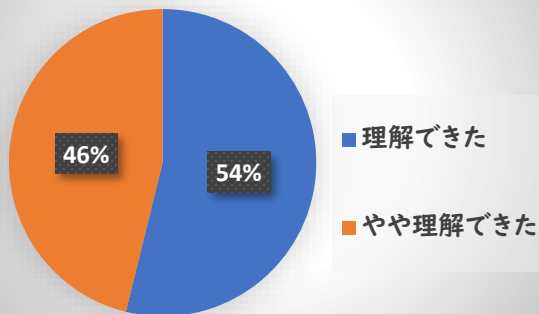
認知症の本人の立場に立って考えることができたか



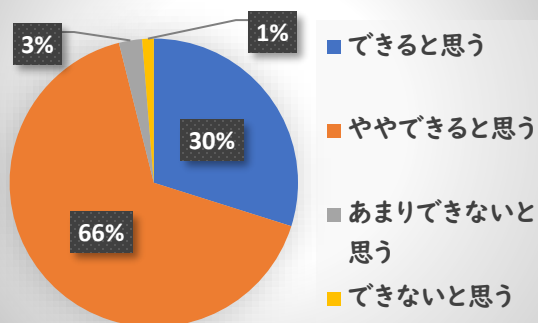
資料 3
研修内容でよかった部分（複数回答）



認知症について、理解できたか



今後、本人の立場に立って支援・介護をすることが出来ると思うか





実施してみて・・・

- ・体験したことがないことは想像がつかないので、VR体験をすることで、まず気持ちの想像を試みる
- ・3～4人のグループとし、それぞれが体験の感想を共有した。また、全体での感想の共有も行い、いろいろな感じ方があることを知ってもらった
- ・機械の操作がスムーズにいくように職員を配置した
- ・認知症についての説明は身近なものとして感じてもらえるよう、わかりやすく説明をした

参加者の感想・・・

- ・VR体験をし、お互いに感想を伝えあうことで、今までなぜこんな言動をするのかわからなかったが、見え方が違うことがわかり、納得できたという感想があった
- ・介護者の声のかけ方で、本人の安心感がかわっていくと感じた
- ・否定をされたくない気持ち、話を聞いてほしいと思う気持ちが分かった

最後に・・・

認知症の本人の気持ちを自分事としてとらえるきっかけになったと思います。福祉関係の職員の参加が多かったですが、今まで「？」だった言動について、なんとなく「こんな気持ちだったかも」と本人の立場に立って考えてもらえたのではないかと感じています。

今後は、介護経験の有無だけでなく関心のある方にも体験してもらい、認知症の正しい理解について普及啓発をしていきたいです